

# ふくしまの 今

国産杉を使って仮設住宅を完成させた『奥会津IORI倶楽部』。「建物を造って終わり」ではなく、会津若松市で避難生活をおくる大熊町民に寄り添う活動を続けています。



「まるで家に帰ったよう」  
避難者の心を癒す仮設住宅

会津若松市城北小学校北仮設住宅は、コテージのような外観。室内に入ると、ふわっと木の良い香りに包まれました。開放感がある高い天井には屋根裏も設けられています。「木の香りがすると心が落ち着きます。屋根裏に物をしまえるので、すっきり暮らせるのもいいですね。縁側はコミュニケーションスペースとして活用されています」と話すのは仮設住宅の市川一區長

です。

工事の推進母体となった『奥会津IORI倶楽部』は、山林に関わる人や職人など奥会津の風土を知り尽くす個人や企業が集まったグループです。

会長の佐久間源一郎

さんは、「山を守るために森林は適度に伐採する必要があります。倶楽部では、地元の木材を使って家づくりすることで雇用にもつなげたいと考えてきました」と話します。仮設住宅の建



木の香り漂う仮設住宅づくりから  
将来のライフスタイルデザインへ

奥会津IORI倶楽部 ● 事務局 (三島町)



奥会津IORI倶楽部

※IORIとは

「木材や自然素材かなど身近なもので作られたシンプルでコンパクトな住居」をイメージ。古来、僧侶や隠者が住んだ簡素な住まい「庵」から名づけられました。



(右) 書家・加藤豊仍さん(写真左)を迎えライフスタイルデザイン支援事業として行われた揮毫会。仮設住宅の市川一區長と集会所に看板を掲げました。

(右上) 揮毫会には多くの住民が集まり、子どもの名前や「復興」などの思いを書いてもらっていました。

(上) 佐久間源一郎会長(右から2番目)、ライフスタイルデザイン支援事業担当の金親丈史さん(左)他、奥会津IORI倶楽部のみなさん。



# 絆つないで

震災以降、県内外さまざまな場所で避難生活を送る浪江町民の皆さん。町民同士で交流を図り支え合おうと、いわき市では浪江町民有志が「なみえ絆いわき会」を設立。さらに、声かけ訪問「ぐるりんこ隊」を結成し、絆を深めています。

## なみえ絆いわき会 [いわき市]

☎090-6783-1474  
(事務局)



▲なみえ絆いわき会・事務局長の齋藤さん(中央)とぐるりんこ隊の皆さん



▲町民懇談会

## 共に支え、語り合おう。 借り上げ住民でつくる交流の輪。

いわき市には、震災により避難生活を余儀なくされている浪江町民が2,200人に及び、その多くは、借り上げ住宅に入居。借り上げ住宅は仮設住宅と違い、町民同志の交流が薄く孤独感を感じている人も多くいます。そこで、町民同士で交流を図ろうと、今年2月にボランティア組織「なみえ絆いわき会」を設立。地域ごとに6方部に分け、講演会や交流会を開催し情報交換を行ってきました。

5月には、女性による「ぐるりんこ隊」を結成。講演会などに来られない人などを対象に、会員宅を月に1回訪問し、体調の様子や悩みなどを聞く声かけ活動が始まりました。故郷の話や何気ない会話が心を癒しています。「訪問当初は警戒していた方も、今では心待ちにしてくれているんですよ。何よりも隊員から皆さんが明るくなったと報告があるのが嬉しい」と事務局長の齋藤敏夫さんは笑顔を見せました。

現在、会員数は約200世帯350人ほど。口コミや隊員による声かけで会員数を増やしています。「今後は、町民が集まり交流できる“場”の確保や、いわき市住民の皆さんとも触れあえる機会を作りたい」と齋藤さんは話します。

長期化する避難生活の中で、町民同士が紡ぐ新たなコミュニティの輪。その広がりと共に、たくさんの笑顔が咲くことが期待されます。



▲故郷や家族の話で笑顔がはじけます



設では、これまでのノウハウを生かしながら、「1日も早く入居してもらいたい」一心で約100人の職人が腕をふるい、会津若松市といわき市に計200棟の『木の仮設』を完成させました。避難所を転々とした後に入居した人々からは「まるで家に帰ったようだ」という声が口々に聞かれたそうです。

## 仮設住宅以降の暮らしを一緒に考える

故郷を離れて仮設住宅に住む人の日々を思い、倶楽部では、

「本当の意味で被災者を支えるには何が必要か」を考え続け、今年4月に『被災者のためのライフスタイルデザイン支援事業』を始めました。この事業は、さまざまな方法でコミュニケーションを図りながら、仮設住宅に住む人たちと一緒にこれからの暮らしについて考え、長期的な将来像を描こうとするものです。

「金親丈史さん。さまざまな交流を深めるなかで、奥会津に魅力を感じてもらえればうれしいですね」。

帰郷や移住、それぞれの思いを受けとめて奥会津IORI倶楽部の皆さんは、木の香りのように穏やかに、仮設住宅に住む人の心に寄り添っています。



(左)厚さ3cmのスギ板で作った仮設住宅は、土台を強化すれば復興住宅にも利用可能です。

(下)「不便な点はありませんか?」世間話から見えてくる生活課題があります。

